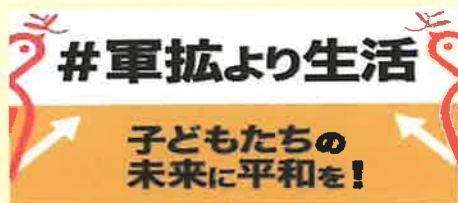


# 「新しい戦前にさせない」



連続シンポジウム

2.28 第2回シンポ

## 女性目線での政治を求め立ち上がった女性たちからの報告

「軍拡より生活」を掲げて、「女性目線」の政治へ舵を切ろうと女性が動き出し、2週間で6万人近い賛同を得ました。あちこちで小さなつむじ風を起こし、やがて日本中に「戦争反対、子どもたちの未来のために」と大きな風を呼び、軍拡と戦争の危険を吹き消そうとしています。

その行動を呼びかけた「平和を求め軍拡を許さない女たちの会」の皆さんに来ていただき、大いに語り合ってもらいます。ふるってご参加ください。

とき

2月28日(火) 18時開場 18時30分開会

ところ

全水道会館 4階大会議室 文京区本郷1-4-1

JR水道橋駅東口下車2分 都営地下鉄三田線水道橋A1出口すぐ

参加費

800円

## スピーチ (2月22日現在確定している登壇者)

田中 優子 (前法政大学総長) 竹信三恵子 (和光大名誉教授)

和田 静香 (ライター) 杉浦ひとみ (弁護士) 雨宮 処凛 (作家・活動家)

## 「反戦準備」 法政大学名誉教授・前総長 田中優子

「日中戦争が『満州事変』という名で始まり、日米戦争が宣戦布告なしに真珠湾攻撃で始まり、ウクライナ戦争が『特別軍事作戦』という名で始まったように、戦争は突然始まり、その原因は一方的に相手にあるとされる。つまり『防衛のため』と言い続ける。

だから、反戦の準備をしよう。戦争の用意がどこでどうされているのか伝えるべきだろう。戦争が何をもたらすのか伝えることも必要だ。あとは歌で、短い言葉で、行動で、そしてやがて、一揆の日がやってくる。何より心の準備が必要だ。」

『東京新聞』1月15日から抜粋

# 「新しい戦前にさせない」共同テーブル・アピール 暮らし(いのちき)は武器で守れない

暮らしを大分では(いのちき)と呼ぶ。いのちを連想させる味わい深い方言である。政府は憲法9条を捨てて軍備拡大に踏み出そうとしているが、それは生命を削り、暮らしを壊す道である。暮らしと軍拡は両立しない。戦火の消えないアフガニスタンで、中村哲さんは井戸を掘り、暮らしを建て直して平和を築こうとした。憲法9条を持つ日本の中村哲さんはそれまでフリーパスでアフガンを歩くことができた。しかし、イラクへの自衛隊派遣が、その平和のパスポートを奪う。だから、哲さんは国会で「自衛隊派遣は有害無益」と訴えた。軍隊が国民を守らないことは旧満州や沖縄の例で明らかである。

軍備に頼らない平和を求めるために、私たちは「安保三文書」を徹底批判する。暮らし(いのちき)か、軍拡か。三橋敏雄という俳人は「過ちは繰り返します秋の暮」と詠んだが、私たちは愚かな軍拡の道を選ばない。

2023年春

## 共同テーブル発起人

浅井基文(元広島平和研究所所長・政治学者) 安積遊歩(ピアカウンセラー) 雨宮処凛(作家・活動家)  
伊藤 誠(経済学者) 植野妙実子(中央大学教授・憲法学) 上原公子(元国立市長) 大内秀明(東北大学  
名誉教授) 大口昭彦(弁護士・救援連絡センター運営委員) 海渡雄一(弁護士) 鎌倉孝夫(埼玉大学名誉  
教授) 鎌田 慧(ルポライター) 金城 実(彫刻家) 纈纈 厚(山口大名誉教授・歴史学者)  
古今亭菊千代(落語家) 佐高 信(評論家) 清水雅彦(日体大教授・憲法学) 白石 孝(NPO 法人官製ウー  
キングブア研究会理事長) 杉浦ひとみ(弁護士) 竹信三恵子(和光大名誉教授・ジャーナリスト)  
田中優子(前法政大学総長) 鳥井一平(全統一労働組合・中小労組政策ネットワーク) 前田 朗(朝鮮大  
学校講師) 宮子あずさ(随筆家) 室井佑月(小説家・タレント) 山城博治(沖縄平和運動センター顧問)

\*\*\*「共同テーブル」はこれから多彩なテーマとパネリストで、連続シンポを企画していきます\*\*\*  
共同テーブルHPに、賛同申し込み書式があります。それに記入していただければご案内をメールでさしあげます。